

- 1、研修テーマ 幼小連携から発達連続性を見つめる～
～制作活動での工夫と試行錯誤をとおして～
- 2、研修期日 平成28年1月14日（木）～15日（金）
- 3、外部講師 児童文学作家 木村 研 先生
- 4、研修日程
- | | | |
|----------|-------------|----------------------|
| 1月14日（木） | 10：40～12：15 | 参観授業「図工科における製作指導の実際」 |
| | 13：00～14：30 | 参観授業「4歳児の製作遊びの実際」 |
| | 15：00～17：00 | 講義「制作活動における指導と留意事項」 |
| 1月15日（金） | 10：20～12：00 | 参観授業「3歳児の製作遊びの実際」 |
| | 13：00～14：30 | 参観授業「5歳児の製作遊びの実際」 |

5、実施報告

（1）参観授業「図工科における製作指導の実際」

低学年ワークショップ

まず最初『変身紙皿』の製作では、事前に子どもたちが紙皿に絵を描いていたためそれを使っての製作となった。ストローと綿棒だけで『ストローロケット』を作った。「よく飛ぶ！」と子どもたちは歓声をあげて遊び始めた。次にストローと紙コップで『ストローアーチェリー』作り「あたり～！」「すご～い！」と夢中になって遊んだ。そして画用紙ともめん糸で『くるくるたここぷたー』を作り、「まわった、まわった！」と走り回った。子どもたちは、「ストローと紙コップですごくとぶのを教えてもらいました。楽しかったです。」と身近な材料から楽しいおもちゃができることに喜びを感じていた。



（2）参観授業「幼児の製作遊びの実際」

幼児のワークショップは、3歳児から5歳児までが傘袋や発砲トレイ・紙コップ・ストロー等を使った制作あそびを楽しんだ。子どもたちは一様にできあがったおもちゃを使って歓声を上げながら遊びこむ姿が見られ、上学年児のなかには遊んで壊れたおもちゃを試行錯誤しながら直していく姿も見られ、短時間のうちに楽しさが意欲や集中力に昇華していく経験も得ることができた。

教職員もファシリテーターとしてワークショップに参加し実践演習としたが、事前の教材準備や子どもの発達に合わせた援助や環境構成など不十分だった事柄も明らかになり「子どもができること」を知ることの大切さや教材研究の重要性にあらためて気付かされた演習となった。



(3) 講義「制作活動における指導と留意事項」

研修会の中では、「幼児或いは 1 年生でもできる」という視点を重点項目にして、どこでも簡単にできるおもちゃづくりの講義演習をおこなった。

紙コップを使ってのパペットづくりでは、できあがったパペットになりきっておはなしをしたり、制作過程においての幼児や児童の持つ道具を使うためのスキルや身体的な力にも配慮しながら指導を進めていくことの大切さが度々語られた。

また、夢中になっておもちゃづくりに取り組む教職員の姿を借りて「おもしろそう」「やってみたい」「わかる」「できる」という気持ちが、普段の学習場面においても子どもたちの意欲を引き出す大きな要素であること、だからこそ子どもの姿を知ることや教材研究が重要であることが示唆された。

